

西宮市会報告

No.136
2025年
秋号**日本共産党****野口あけみ**●議員団長
●総務常任委員
●都市計画審議会委員**庄本けんじ**●幹事長
●議会運営委員
●健康福祉常任委員**三好さつき**●教育こども常任委員
●広報委員
●社会福祉審議会委員発行●日本共産党西宮市会議員団 西宮市六湛寺町10番3号(西宮市役所内)
Eメール:nmc30547@nishi.or.jp TEL:0798-35-3368 FAX:0798-22-7815 ホームページ:http://nishinomiya.jcp-giin.net/

9月定例会市議会が8月29日から10月2日まで開かれました。9月議会では、2024年度決算が審査され、一般質問には庄本けんじ、野口あけみ両議員がたちました。

困った時は

日本共産党ご相談は
お気軽に

0798-35-3368

〈来年1月から〉**子ども医療費 高校卒業まで****完全無料に**9月議会では、「子どもの医療費」の完全無料化の議案と、それにと
もなう補正予算案が提出され、党市議団を含む賛成多数により可
決されました。啓誠会が、優先すべき課題はほかにある、市長の選挙目当てでし
かない等の理由で反対しました。維新の会、会派・ぜんしんは、賛成したもの、啓誠会と同様の主張を討論で発言し、市長の財政運営
は無責任と、激しく非難しました。これにたいして、党議員団は、三好さつき議員が賛成討論に立ち、
「市民要求にかなった公約を実現することは当然のことであって、批
判されるものではありません」ときっぱりと意見を表明しました。

新たに4万1000人の子どもが医療費の窓口負担がゼロに

現行制度で一部負担金がある1歳
から高校生世代、約41,000人が新た
に完全無料となります。来年度以降は
約6億円の増額が見込まれています。党議員団が一貫して求めてきた高
校生までの医療費完全無料化が、いよ
いよ実現することになります。

こども医療費減免制度の概要

※民生常任委員会所管事務報告より

●現行制度

	乳幼児等医療費助成制度		こども医療費助成制度	
	0歳	1歳～小3	小4～中3	高1～高3
所得基準額以上	通院:800円、入院:無料			
所得基準額未満	通院:無料 入院:無料			

●2026(令和8)年1月から実施

	乳幼児等医療費助成制度		こども医療費助成制度	
	0歳	1歳～小3	小4～中3	高1～高3
所得基準額以上	通院:無料 入院:無料			
所得基準額未満	通院:無料 入院:無料			

所得基準額…扶養義務者(父母等)全員の市町村民税所得割額の合計が23万5千円
市町村民税所得割額23万5千円はおおむね世帯年収800万円程度に相当

2024年度決算

切実な住民要求の実現を求め、認定に反対

庄本けんじ議員は2024年度決算についての討論に立ち、い
ま西宮市が推進している「財政構造改善実施計画」は、多岐に
わたる住民要求を削りながら、一方で、不要不急の開発を優先
するものと厳しく批判し、決算を認定するわけにはいかないと、
反対を表明しました。その際、当局の議会への説明責任が果たされなかった事例
についても指摘し、市の基本姿勢をただしました。1つは、学校
部活動の地域移行に関する議会への説明欠如、2つ目は、西宮
北部に建設予定の特養施設について計画変更に対し住民から
厳しい批判が起きているにもかかわらず、その事情が一切議
会には知られることなく議案提案されたことです。これらの問題は、議会のチェック機能を果たすための前提条件にかか
わる重大問題で、看過できない問題です。討論では、住民から寄せられている切実な要求のうち、生活
保護を利用する人の制度活用に漏れがないようにすること、保
育所の待機児童を即時解消すること、子どもの権利を守るた
めの公的第三者機関を早期に設置すること、高齢者補聴器購
入への助成制度を創設することを求めました。なお、決算審査
でも党議員はそれぞれ、住民要求の実現に向け議論しました。いま、日本は重大な歴史的岐路を迎えています。時代逆行の
道ではなく、この悪しき現実と政治を変え、新しい政治をみん
なで実現するために、党議員団はひきつづき奮闘します。



庄本けんじ

排外主義を許さない NOの声を

庄本けんじ市会議員は、排外主義の問題と学校給食調理室の熱中症対策について、当局の見解を求めました。**外国人を差別する排外主義は、先の参院選挙でも大きな問題となり、今後の日本の進路においても大きな問題**となることから、外国人を差別する排外主義に反対する各方面からの声を紹介し、西宮市長と教育長の見解について質問しました。

市長は、「異なる背景を持つ人々が共に生きる共生社会を破壊する危険なもの」と答弁し、教育長は、「外国人などに対する差別や偏見を持つことは、もちろんあってはならないこと」と表明。市長と教育長の排外主義にたいする明確なノーの表明を受けて、庄本議員は、排外主義を許さない共同を呼びかけ、そこに希望があるということを強調し、質問を結びました。



学校調理室の熱中症対策とエアコン設置

学校給食調理室に空調設備が設置されていない学校が20校残されています。西宮市は、近年の酷暑でこれまでの計画を見直し2026年度からの2年間で全校設置を完了させることとし、この9月議会で必要な補正予算が提案され、可決されました。

こうしたことをふまえ、庄本議員は学校給食室の熱中症対策について質問。**今年6月、全国の職場の熱中症対策が義務化**され、市ではエアコン未設置の給食室を対象に、給水のため休憩室への冷蔵庫設置、休憩確保のための職員加配などの対策を実施していました。**ところが、7月に2校で熱中症で調理員が救急搬送されるという事案が発生し、ここでは加配がされていなかったことが判明。当局は、あれこれと弁解し加配は困難と強調しましたが、庄本議員は、ことは人命と健康にかかわる問題として、加配の確実な実施を強く求めました。**



野口あけみ

2030年に 国民健康保険料 県下完全統一へ

～国・県は財政支援と保険料抑制を～

野口あけみ議員は、国民健康保険（以下、国保）について一般質問しました。加入者の7割以上が低所得層である国保は、保険料の高さが国民の間でも自治体でも「構造的なもの」として、問題となっています。

西宮では、2006年7月に、「国保料の引き下げを求める西宮市民の会」が発足、党議員団もともに、当時県下で一番高かった保険料引き下げを求めて署名や市との交渉を行い、**2008年には保険料引き下げのための一般会計からの繰り入れ（以下、繰り入れ）が実現**。その後も繰り入れと市独自減免制度が創設され、保険料抑制に役割を果たしてきました。

しかし2018年、国は、国保の運営を市町村から都道府県に移行、保険料率の県下統一をめざします。これは、自治体の保険料抑制の取り組みである、繰り入れと独自減免をやめさせることにつながります。

市では、**国の繰り入れ解消の強い指導によって2020年から段階的に繰り入れを減額、2024年はゼロに。さらに、2030年には県が保険料率を完全統一する方針を発表、市の独自減免も2026年から段階的に廃止**するとしました。

野口議員は、保険料の県下統一と独自減免廃止で保険料が大きく引き上がることになり、**国と県に対し、財政支援と保険料率抑制を強く求めるべきと主張**しました。



水道料福祉減免制度の継続を

次に野口議員は、財政構造改善実施計画で2027年度より**重度障害者世帯に対する上下水道料福祉減免制度を、収入要件を付した福祉給付金創設など新たな制度に移行**するとしているが、**現行の福祉減免を継続すべきと追及**。市は、新制度移行にあたって、収入要件を設けた給付金と福祉減免の経費等について比較、検討すると答弁しました。



26年度から 国が 小学校給食費無償化の方針

「丁寧な制度設計と予算措置を求める請願」が全会一致で採択されました！！

西宮市の学校給食無償化をすすめる会から、「2026年度開始とされる国の責任での小学校給食費無償化実施にあたり、国に丁寧な制度設計と十分で豊かな予算措置を求める意見書の提出に関する請願」が提出され、全会一致で採択されました。今後、国へ意見書が提出されます。

請願は、2026年4月より、全国一律で「小学校

の学校給食費を無償化する」という制度にあたり、**国が各自治体の実態や方針を尊重し、給食の質が低下することのないように求めたもの**です。

市議会では**2024年6月に「無償化実施を国に求める意見書」が全会一致で採択されたこと**に続き、**市民の声が市に届きました。**

